

茨城大学同窓会連合会会報

2024.3
第18号

2023年ホームカミングデー

自ら変化できるポテンシャル

茨城大学同窓会連合会
会長 杉田 龍二

我々を取り巻く環境は常に激変しております。企業や産業も大きく変化しており、例えば、VTR（ビデオテープレコーダー）産業や半導体産業は、かつて世界を席卷しましたが、今やVTR産業は消滅し、半導体産業は国と外国企業の支援を受けて復活を図っている状況です。このような中で組織が生き延びるための必要条件は、変化できるポテンシャルを持つ、ということだと思えます。変化の大きい企業ほど成長しております。自ら変わらないものは生き残れません。

茨城大学も大きく変化しており、2024年度から文理横断型の新しい組織である地域未来共創学環が開設されます。また、現在注目されているデータサイエンスやジェネレーティブAIに対応できる卒業生を増やすべく、その関連学科・専攻の学生数を増加します。

同窓会組織も、5学部の同窓会が連携した同窓会連合会を校友会に移行しようと取り組んでおります。今後、同窓会と大学との連携の強化、情報の共有などを更に推し進めて参ります。なお最後に、2023年に全国公開された映画「Winny」を紹介しておきたいと思えます。この映画は茨城大学情報工学科・情報工学専攻出身の、天才と呼ばれたソフトウェア技術者が主人公となっております。彼は、ネット社会を変革するファイル交換ソフトを、約20年前に世界に先駆けて開発・公開し、裁判で戦い勝利を勝ち取りました。このような卒業生がいたことは同窓会の誇りであり、我々に勇気と元気を与えるものだと思います。

次の75周年から、さらに150周年に向かって

茨城大学
学長 太田 寛行

茨城大学は、今年、創立75周年、さらに最も古いルーツ校である拡充師範学校の創設から数えて創基150周年という節目を迎え、新たな75年、150年に向かって歩みを始めます。その記念すべき年の4月に、まず「地域未来共創学環」がスタートします。この教育カリキュラムの特色である“コオプ実習”では、地域の企業や自治体と連携して新たな教育の仕組みを展開させていきます。2つ目は、学生支援のバージョンアップです。本学は、4階層からなる「教育の質保証システム」を構築してきました。次なる挑戦は、学生自身の「質保証」のアクションを支えることです。多様な「学生の自己実現（なりたい自分になる）」を実現できるように、学生の将来像づくりを支え、学生生活だけでなく、学業に関する悩みの解決をこれまで以上に支援する統合的な組織をつくります。3つ目は、「サステナビリティ学の拠点」として国際的な存在感を示すことです。これまでの「サステナビリティ学」の教育研究を深化させ、気候レジリエント開発に向けた“アジア地域総合気候変動科学”の共創に取り組みます。

私たちは、今、戦争が拡大する混乱の時代を生きています。一刻も早く戦争を終結させることは、世界のだれもが持つ思いのほうです。本学の全教職員は、そのことを信じて、平和を希求する心を持ち続けて、大学業務にあたっていきます。今後とも、同窓生の皆さまのご支援をお願いするとともに、同窓会連合会の発展を祈念しております。

同窓会交流コーナー

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会副会長兼幹事長 鈴木 章史

昨年度は、初めての試みとして、総会開催を茨苑祭とホームカミングデーに合わせて、11月にしました。また、会場も人文社会科学部の10番教室とするなど大学や人文社会科学部のご協力を得て、マスク着用や手指消毒など感染防止対策をしながらの開催でした。



第38回理事会出席者の記念写真

今年度は、理事会の開催となりましたので11月11日(土)に、以前のように市内のホテルで開きました。理事会では、令和4年度の事業活動報告及び決算報告、令和5年度の事業計画及び予算について承認されました。その後、従来であれば、理事会後に懇親会を行っておりましたが、コロナ禍を考慮し、出席者全員で記念写真を撮り、1時間程度の昼食会とし、解散いたしました。

教育学部同窓会の近況報告

教育学部同窓会幹事長 齋藤 英敏

令和4年度は幹事会・総会を対面で6月25日(日)に開催いたしました。小島睦新会長のもと予算審議や事業計画について話し合いました。会の同意を経て、今年度も予算から教育学部に教員採用試験対策等の費用として100万円を拠出しました。総会后、教育学部を退職された4名の先生をお迎えして祝賀会を行いました。また同窓会では会のロゴマークを作成し、そのロゴを入れたクリアファイルも作成しました(図参照)。今年度の卒業生にまず配布をする予定であります。また、現在同窓会ホームページを制作中で、新年度中には公開できる予定ですのでお待ちください。



茨城大学
教育学部同窓会

ロゴとそのロゴが入ったクリアファイル



理学部同窓会の近況報告

理学部同窓会会長 鈴木 忠和

2023年度・同窓会常任幹事会の活動方針の承認をいただくための幹事会が2023年6月17日(土)、理学部インタービュールームにおいて3年ぶりに対面式で開催されました。当日は30名の幹事の方々のご出席をいただき、前年度の活動報告を含め常任幹事会提案事項のすべてに承認をいただくことができました。会議終了後岡田名誉会長(理学部長)から「理学部の現状」と題する講演をいただきました。講演の中で名誉会長は大学院博士後期課程における定員確保の問題について触れられました。この問題については同窓会としても共有すべきことと認識し、何らかの形で理学部と協力していきたいと思っております。



2023年度・幹事会集合写真

幹事会において承認をいただいた2023年度同窓会活動については、会報26号の発行、同窓会会員名簿保守・更新、ホームページの運用など順調に推移しております。また、支部活動についても京水会(東京支部)が11月18日(土)に、理水会(水戸支部)が11月11日(土)に3年ぶりに開催され、幹事会の対面式での開催と合わせて常任幹事会活動の定常化が図られております

多賀工業会(工学系同窓会)の近況報告

多賀工業会理事 清水 淳

2023年度の代表的な活動として、5月に多賀工業会報66号(A4カラー、110ページ)を発行し、新たに「奨学一時金」の第1号の助成を受けた6名の院生による国際会議体験記を掲載しました。7月1日(土)には、多賀工

業会館で対面では4年ぶりとなる理事会を開催し、本部や支部から集まった理事同士が久方ぶりの再会を喜び合いました。11月4日(土)のこうがく祭では、多賀工業会館で例年に倣い写真・絵画展(写真上段参照)を開催し、多くのギャラリーが興味深く閲覧する様子が見られました。昨年に続きOB・OGによる学生向け懇談会(写真下段)も開催し、就活を控えた学生からの真剣な質問に丁寧に受け答える光景が見られました。これらのこうがく祭の様子は、多賀工業会のInstagramにも掲載されておりますので、ぜひご覧ください。このように、コロナ禍からの脱却を果たした多賀工業会の活動に対し、益々のご支援をよろしくお願い申し上げます。



こうがく祭の写真・絵画展(上段)と学生向けOB・OG懇談会(下段)の様子

農学部同窓会の近況報告

農学部同窓会幹事長 小松崎 将一

令和4年度から令和5年度にかけて、茨城大学農学部同窓会は第2回及び第3回の学生表彰を行いました。令和5年3月31日(金)に行われた令和4年度農学部同窓会表彰学生表彰式(後期)では、学部2年次生の7名が受賞しました。受賞者代表学生は以下のようにお礼のことばを述べました。「私たちは学生生活を支えてくださった皆様に感謝しています。今後は、この2年間で身につけた知識を活かして、コロナ禍で制約されていたアクティ



令和5年度茨城大学農学部同窓会表彰学生表彰式

ブラーニングを積極的に行い、更なる努力を続けていきます。」また、令和6年1月31日(水)の令和5年度農学部同窓会表彰学生表彰式(前期)では、学部4年生の7名と修士1年生の7名が受賞しました。授賞式で中村会長は、「日頃の皆様の努力が評価されたことを心からお祝い申し上げます。この受賞を機に、同窓会が皆様の学生生活をサポートし続けられるよう努力してまいります。」とエールを送られました。

大学トピックス

学生団体応援イベント「Ibaraki University Giving Campaign 2023」を実施

令和5年6月及び11月に学生団体の課外活動の応援を目的として、昨年度に続きオンラインチャリティーイベント「Ibaraki University Giving Campaign 2023」を開催しました。今年度は2回開催し、70以上の学生団体が参加し、延べ15,000人以上の方から応援や温かなメッセージをいただき、大きな盛り上がりとなりました。

本イベントで集まった寄附金は、学生団体への支援等に活用させていただきます。



多くの応援をいただきありがとうございました。

「茨城大学ホームカミングデー2023」を開催

令和5年11月11日(土)に「茨城大学ホームカミングデー2023」が茨城大学の主催、同窓会連合会の共催で開催され、太田学長による大学の近況報告、学長特別補佐(SDGs推進)によるSDGsに関する特別講演の後、オンラインチャリティーイベントに参加した学生代表からの報告などが行われました。当日は、80名以上の方にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。

また、水戸キャンパスでの学園祭「茨苑祭」と同時開催となりましたので、本プログラムの終了後には茨苑祭を楽しんでいる方もいらっしゃいました。



茨苑祭との同時開催

